

#metoo

#RESPECT

アメリカとフェミニズム

200781225 松本佐知子



はじめに

世界で男女の枠を超えてジェンダーが多様化

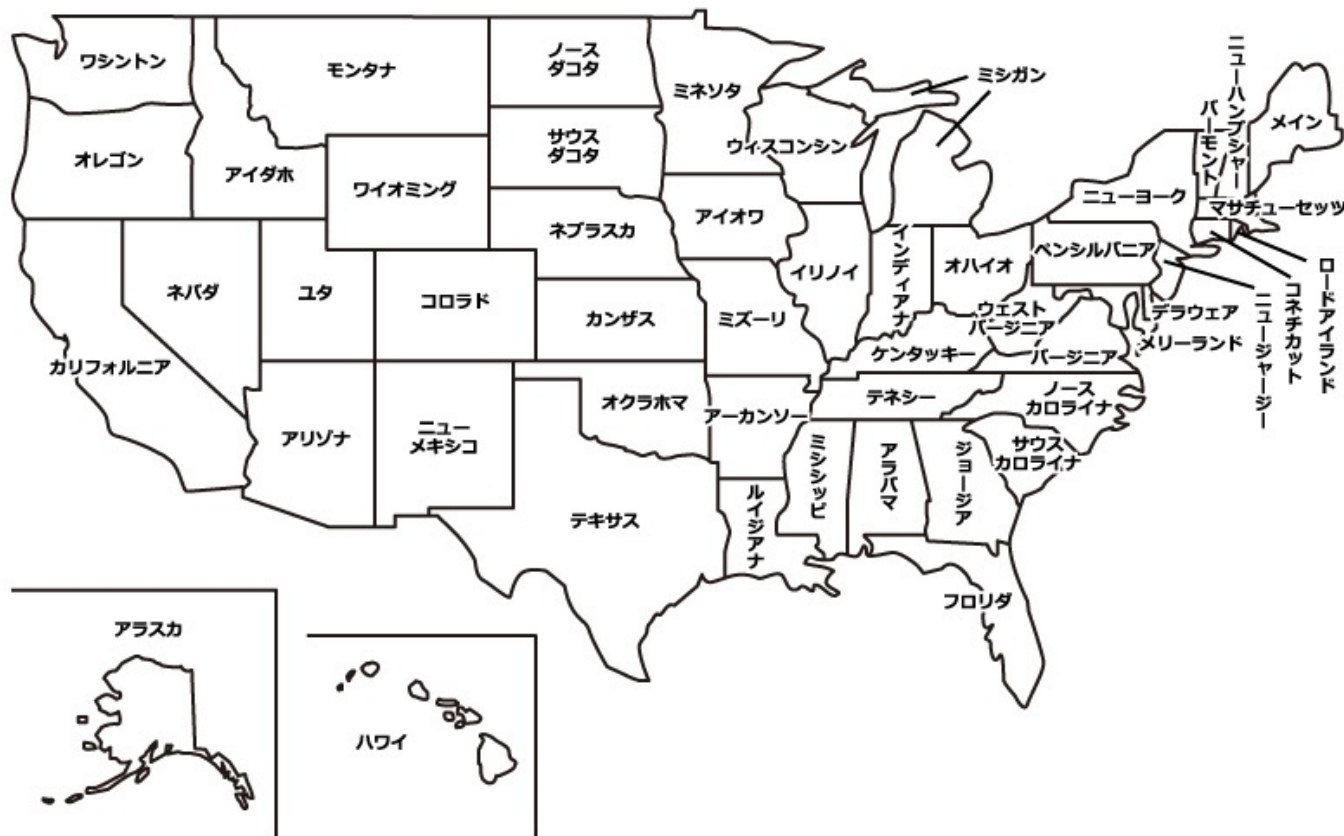
アメリカの女性の歴史的背景から
フェミニズムの今後の展望について考察

アメリカ合衆国

西半球にある国

ア)人口 3億3480万人
イ)面積 9,834,000km²

ウ)北アメリカ大陸48州
アラスカ州
ハワイ州



第1章 アメリカとフェミニズム

第1節 フェミニズムとジェンダー

ア)人間は「女」と「男」の2つ性別

→異なる特徴を所持→「常識」

イ)19世紀から

女性が自己実現の機会を得られるような社会を求める思想と運動が誕生

→「フェミニズム」

イ)20世紀以降 この「常識」がさまざまな形で検討

→社会的や文化的に男女の性別二文法のあり方を検討

「ジェンダー」の概念が誕生

第2節 植民地時代の女性

ア)1492年10月12日 コロンブスによってアメリカ大陸発見

→スペイン王の領土

イ)17世紀初頭 オランダ、イギリス、フランスが主にアメリカの植民地を構築

→最終的にイギリスが勝利

ウ)イギリスの植民地の特徴→「農耕」を目的

a)先住民を排除

b)定住社会を建設

c)女性が多い

第2節 植民地時代の女性

ア)出身地の文化や所属する階級で相違

a)比較的早婚で15～16歳で結婚

b)年季奉公人の女性は4～5年間の

年季が明けるまで結婚厳禁

→平均的に20～21歳以降に結婚

c)年季を不納

→ムチ打ち

年季の期限延期

第2節 植民地時代の女性

ア)1637年 ハーバード大学が設立

→女性の正規の教育無

イ)南部植民地に多かった年季奉公の女性たち

→ほとんどが識字不可能

ウ)奴隷の女性

→自分の名前を綴ることが不可能

第3節 独立後の女性

ア)1776年 独立宣言

独立宣言文「すべての人(men)は平等に作られている」

→この場合の「人」とは一般的に白人男性を意味

a)男性→選挙権を含めた市民の権利と義務を暗示

b)女性→「共和国の母」という役割を暗示

→政治という場には不参加

→子供の教育を通して国家を支持

第2章 フェミニズムの誕生

第1節 女性教育のはじまり

ア)独立後 「共和国の母」の思想の誕生

→女性にも教育を授ける学校が増加

イ)1780年代 「アカデミー」女子中等教育機関が設立

a)1787年 フィラデルフィア・ヤング・レディズ・アカデミー

→男性によって設立

ウ)19世紀初め 「セミナリー」女子教育機関が設立

→女性によって設立

第2節 奴隷解放運動とフェミニズム

ア)家父長制 アメリカの社会構造の基盤

イ)奴隷貿易の初期段階

a)労働力の輸入に主眼

→黒人男性が重要視

→男性奴隷の方が女性奴隷より高価

ウ)働き手が不足

→移民の白人女性を黒人男性奴隷と性的関係を強要

→法的に奴隷でない黒人「自由黒人」

第2節 奴隷解放運動とフェミニズム



ア) 黒人女性奴隷の子ども

a) 父親の人種が何であれ、法律上は奴隷

b) 母親奴隷所有者の財産

→ 黒人女性奴隷の市場価値高騰

→ 大勢の女性奴隷が白人の奴隷商人に窃盗・買収

イ) 1838年2月21日

奴隷制度廃止論者アンジェリナ・グリムケ

マサチューセッツ州議会で演説

ウ) 1837年 奴隷制と女性の活動をめぐって論争

第3節 女の独立宣言

ア)アメリカ初 女性の権利の要求

a)1848年7月19日・20日 セネカ・フォールズで開催

b)1830年代の奴隷制廃止運動から誕生

c)女性参政権運動家たちは奴隷制廃止運動家

→第1波フェミニズム運動の起点

第3章 女性による改革運動

第1節 女性参政運動

ア)1863年 奴隷解放宣言

a)憲法修正14条・15条

→黒人と共に女性も参政権獲得を期待

b)21歳以上の男性のみが市民と規定

→参政権獲得

c)1868年1870年 修正14条・15条成立

→女性の参政権無

第2節 労働と女性

ア)南北戦争後～19世紀後半 全国規模の資本主義国家

a)移民増加

b)労働運動の激化

c)女性の労働市場拡大

→主に看護師、教師、事務職

→同職の男性より女性の収入は低価

d)女性の職場進出→急激に離婚が増加

第3節 ジャズ時代の女性

ア)1914年第1次世界大戦勃発

a)大戦後 アメリカは世界経済の中心

b)ジャズ時代のシンボリックな女性「フラッパー」の出現

→赤い口紅、ショートヘア、大胆なファッション

→女性のファッションの変化

→飲酒、喫煙女性増加

第4章 多様性とフェミニズム

第1節 ウーマン・リブ運動

ア)ウーマン・リブ運動

a)1960年代後半～1970年代前半

b)別称 ラディカル・フェミニズム運動

c)1963年 ベティ・フリーダン『新しい女性の想像』出版

d)フリーダン中心に全米女性機構(NOW)結成

イ)運動の中で「女」という同一性への疑問が浮上

→レズビアンや有色人種の女性など

第2節 第3波フェミニズムとポストフェミニズム

ア)第3波フェミニズム

- a)第2波フェミニズムを肯定
- b)代表的「ライオット・ガール」
- c)インターネットを活用

イ)ポストフェミニズム

- a)フェミニズムの目的や考えに共感
- b)第2波フェミニズムを批判
フェミニストに対して否定なイメージ
- c)女子大学生やキャリアウーマン多

第3節 インターネットの普及とフェミニズム

ア)2000年以降 インターネットの活用

a)フェイスブックやツイッター(現在のX)などのSNSを利用

b)フェミニストの活動が多様化

イ)第4波フェミニズムの誕生…?

a)ハッシュタグ・フェミニズム

b)ウィメンズ・マーチ運動

→活動目的が多数

→多様な観点から展開

終章 今後の展望

今後のフェミニズムに対する2つの考え

A) 第3波フェミニズム

「フェミニズムは終わらない」
「フェミニズムはまだ必要」

B) ポストフェミニズム

「フェミニズムは必要ない」
現代社会では既に達成

→ A) 第3波フェミニズムを支持

理由; さまざまな場において女性差別はしばしば感受

今後のフェミニズム

多様性を尊重 + 複数の視点

それぞれの事情への配慮

認識の共有が必要